
詩

冬桜弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩

【コード】

N9712F

【作者名】

冬桜弥

【あらすじ】

恋愛、友情などの青春を綴った詩。苦く、淡い青春。甘く、儂い青春。あなたはどの形ですか？

僕の存在

ねえ 聞こえていますか？

僕の声

ねえ 見えてますか？

僕の存在_{こと}

君はいつも僕に残る

誰かの面影を探している

隣りにいる 『僕』の声を

目の前にいる 『僕』の存在_{こと}を

どうか

気付いてください

輝き

君を好きになつた瞬間から
輝きだした私の日々

君は

眩しいくらいに輝いていて
私の手が触れる前に
君に 掻き消されてしまう

君は

眩しいくらいに輝いていて
私の足が追いつく前に
君に 掻き消されてしまう

天と地の差もあるほど違う

君と私の世界

君は

誰にも好かれ

誰にも憧れられ

全てを持っていた

それに比べて私は

何て

小さな存在なんだろう

だからこそ

君に 憧れたんだ

君の持っているもの
全てを求めた

次第に

その感情は

恋へと代わり

君自身を

求めた

君の持っているものではなく

君という

惟 一人の人間^{ヒト}を

いつか

君に負けないくらい

輝ける日まで

* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *

何も足りないものはない

そう思ってた

君を好きになるまでは

友達に好かれ

友達に憧れられ

全てが満たされていた

でも

君を見た瞬間ときから

それは変わり始めていたんだ

君を見た瞬間ときから

僕の心は

はっきりと

穴を開けていた

何かは分からない

でも、無性に何かを求めた

そして

僕は、気づき始めたんだ

君の優しさを

君の笑顔を

求めていると

目立つわけではないけれど

優しく

いつも、笑ってる君

モノクロな世界の中で

君だけが

輝きを増してゆく

君の

その優しさを

僕にだけ向けて欲しい

君の

その笑顔を

僕にだけ向けて欲しい

君に

僕の心を

満たして欲しい

いつか

君に負けないくらい

輝ける日まで

いじめ

やめて……

やめて……

やめて……

ねえ、

私がかした？

どうしてこんなコトするの？

ある日、それは突然始まった

これまでと同じ毎日が続くと思っていたのに

これまでと同じ幸せな日が続くと思っていたのに

これまでと同じで友達だと思っていたのに

ねえ、どうして？

降り続く心の雨

蟠りを 洗い流してはくれない

笑ってるかもしれないけど、

心の中では泣いているんだよ？

ねえ、

誰か聞いて

私の本音こころ

* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *

悲しみに包まれた

君の心

深く傷ついた

君の心

静かに泣いている

君の心

君の心に

僕は何もしてあげられない

悲しみを解くことも

傷を癒すことも

雨を止ませることも

気付いていたんだ

あの日から

君がいつもより

悲しそうで

辛そうで

苦しそうだったから

でも僕は

そんな君に目を背け

気付かないふりをしていた

何故あの時

気付かないふりをしてしまったのだろう

何故あの時

側にいてあげられなかったのだろう

何故あの時

守ってあげられなかったのだろう

後悔だけが心を渦巻いている

日に日に

汚れていく君の瞳^め

涙を流すことさえ忘れたその瞳^めは

今、何を映しているのだろう

後悔しても

また、何もできない毎日を繰り返している

勇気が無くて

その一言が言えない

その一言だけで

君に笑顔が戻るかもしれないのに

僕は
何て無力なんだろう

v a r i o u s

【新学期】

新しい靴

新しい鞆

新しい教室

全てが新しくなる

全てが変わる

皆の目には期待が満ち溢れ

希望に輝いている

皆の顔には笑顔が満ち溢れ

喜びに輝いている

今年はどんな私でいよう

今年はどんな私になろう

これからの1年間に期待を込めて

【入学式】

今日から通う新しい学校
私はどんな3年間を送るのだろう

期待と不安が入り交じる教室
あの子はどんな子なんだろう
私はどういふ風に見られてるのかな

これから始まる
新しい学校生活

どうか楽しく過ごせますように

【下キ】

1回・・・2回・・・

振り子が揺れる

1秒・・・2秒・・・
時間が進む

永遠それに続いて欲しいと願っても
願いを嘲笑うかのように

1秒・・・2秒・・・
時間は進む

ただ
年月の流れに身を任せて

1秒・・・2秒・・・

二度と戻れない 瞬間を進め

【思い出】

人は 過去を思い出と名付け
心の箱へと大事に仕舞い込む

時々

思い返したように鍵を開け
懐かしい思い出に身を埋める

過去でしかない思い出を夢見るが

目を開けると

あるのは現在^{いま}

過去には戻れない

あるのは未来

生きる意味

生きている

私達ニシゲンより短い命を力一杯に

必死に鳴いて

必死に飛んで

必死に泳いで

必死に走って

必死に食べて

必死に逃げて

死なないことが生きる意味のように
惟 生きるためだけに

私達ニシゲンは

その 力一杯生きている彼らひとしがしを
自分達の思うがままに 命を奪う

まるで

彼らひとしがしは自分のモノとでも言うように
残酷に

人が 人を殺すと裁かれる

では 何故

ひとが彼らを殺しても裁かれない？

同じ命には変わらないのに

生きていることには変わらないのに

人の生きる意味は何だろうか？

死なないために生きているのだろうか？

誰も 望んで生まれたワケじゃない
生きる意味なんか 考える暇もなく
本能に従って 生きてきた

時々 生きる意味なんか無いと
自ら命を絶つ人もいる

でも 生きる意味のある人なんて
本当にいるのだろうか？

何となく毎日を過ごして
何となく毎日を生きて

せめて
生きてたくても生きられない
ひとたち 彼らの分まで

命を奪ってしまった
ひとたち 彼らの分まで

力一杯生きよう

生きたことに誇りを持てるように
幸せでしたと言えるように

カ一杯生きよう

あなたは生きる意味を
見つけられますか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9712f/>

詩

2010年12月21日18時12分発行